

第4期第6回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録

日 時	令和2年10月26日(月) 18時30分～20時
開催場所	横浜市役所18階 みなと1・2・3会議室
出席者	明石要一部会長、青山鉄兵副部長、飯塚昇委員、緒方克行委員、工藤春治委員、熊谷浩伸委員、世古正樹委員、辺見伸一委員、宮崎良子委員、宮永千恵子委員
欠席者	なし
運営法人 参加者	株式会社理究キッズ、公益財団法人よこはまユース
開催形態	公開(傍聴者3人)
議 題	<議事> 放課後キッズクラブ事業について

<議事>

放課後キッズクラブ事業について

(事務局) 資料5及び別紙に基づき説明

(熊谷委員) 実際に新区分を設けた際に、事業者が既存の区分からどれほどの人数が新区分に移るかを事前に調査しなければ、おやつを提供場所や提供方法などを準備しにくいと思うので、シミュレーションをするために、事前調査の機会があってもよいのではないかと思います。

(宮崎委員) 利用者向け、運営法人向け、学校向けにアンケートを実施したというのは、とてもよいことだと思いました。保護者アンケート結果は速報値ということですが、全員の利用者さんの意見を聞けるよう回答率を上げてほしいです。回答数が少ないのにそれだけで意見を取ってしまうのはよくないと思いました。

(事務局) アンケートについてはあくまで速報値ですので、最終結果については、次回報告します。なお、現時点で6,000近くの回答をいただいております。これまでの集計から回答の傾向に変化はなく、一定数の回答をいただけたと考えます。

(緒方委員) 3枚目のスライドで、平成31年に比べて令和2年の4月の区分1の登録児童数が約2万人減っていますが、コロナウイルスの影響ですか。

(事務局) そのとおりです。コロナウイルス感染拡大防止のため3月から7月の間、区分1の利用を制限していました。7月以降に利用再開をしましたが、三密を避けるために限定的な利用としている状況での4月の登録児童数なので、例年と異なる結果になっています。

(緒方委員) 児童や保護者の立場からすると、区分1利用時間の短縮について理解を求めることが難しいのではないかと思います。最近キッズクラブが整備されたところに、児童クラブから移ってきた家庭もあるのではないかと思います。移った後で区分1の利用時間が短縮となり、土曜日も廃止になるのであれば、キッズクラブに入らなかったという家庭もあったのではないかと思います。

また、スライドの17枚目では、「16時までとなった場合、何が困りますか」という設問があり、区分2の利用者も含めて回答がありますが、区分2の利用者が問題ないと回答するのは当たり前のことで、区分1の中で困る家庭が出ることを危惧しています。

(事務局) アンケート結果では、「特に困ることはない」という回答が36.5%で、「親が就労しているため、キッズクラブ以外に預け先がない」という回答が23.0%でした。これは、当初より分析していた共働きで区分1を利用している家庭の割合から、コロナ禍において区分1から区分2に変更した方がいること等を踏まえると状況はほぼ一致していると考えています。共働き世帯で区分1を利用している方々に、生活の場というのを提供したいというのが今回の見直しの大きなポイントの一つですので、このような世帯に新区分を利用していきたいと考えています。

ただ、区分1の時間帯が短くなることに対しては、高学年の利用が短くなるといった意見がありますので、本来の区分1の考え方である「遊びの場」としての利用については、一定のルールを設けた上で16時以降も利用できるようにしたいと今回提案させていただいています。

また、区分1でお迎え無しの帰宅については、夏季は17時までできますが、冬季はクラブによって16時や16時半頃で、お迎え無しの帰宅が制限されています。季節によっては、大きな制限にはならないのではと考えています。

(世古委員) 区分2の利用者は、区分1の短縮について影響を受けないと思うので、利用者全員のアンケート結果を考えるのではなく、区分1の利用者に絞ってアンケート集計・分析をすれば、今後に活かされる意見がまとまるのではないかと思います。

(明石部会長) 利用頻度の少ない高学年の居場所づくりを考えることは難しいと思いますが、例えばキッズクラブの年中行事には参加してもらい、低学年の面倒を見たり、あるいは自分たちでイベントを企画することで、高学年でも利用の意向が上がるのではないかと思います。

(熊谷委員) キッズクラブでイベントを土曜日に開くと、6年生まで参加して楽しんでもらっているようなので、そういった機会は定期的に必要なのだと思います。

また、7枚目のスライドで、平成30年度のアンケート結果から「プログラムの充実」が挙げられておりますが、一方で放課後児童クラブの同様のアンケート結果では、「行事・イベントの充実」は順位が高くありません。このことから放課後児童クラブには、遊びのバリエーションであったり、高学年の活動意欲を高めるような取組があるのではないかと思いますので、プログラムの充実化については体験・創作活動以外の視点でも高学年を受け入れるアプローチが必要なのかと思います。

(明石部会長) 高学年のキッズクラブ参加について、新しい学びや遊びの方法など、よいプログラムの提案があるか、理究キッズとよこはまユースにお聞きします。

(理究キッズ) 高学年が参加しやすくなるためには、高学年がどのように放課後を過ごしているのかというところにヒントがあると思っています。スライドの21枚目では、高学年になると塾や習い事に行っている児童の割合が大幅に増えていることが分かっているので、そういったことがキッズクラブで行われてくると、キッズクラブで過ごす児童が増える可能性があると思います。

(よこはまユース) 保護者がある程度、家庭の価値観で様々な事業を選べる中で、単にキッズクラブのプログラムの内容を充実させるだけでは、高学年の参加を考えるというのも限

界があるのではないかと考えています。家庭の中で地域を意識することが減っていると感じますが、地域行事に参加することで主体的に交わる意識が芽生えていくため、今後放課後部会などで、プログラム内容を検討する際の視点に加えるとよいと考えます。

(工藤委員) 地域の子ども会では、5年生、6年生が事業を企画して自分たちでまとめながら、周りの子どもを楽しませています。年齢が上がれば、下級生を楽しませるというサイクルで活動しています。放課後の活動に高学年があまり参加したくないというのは残念ですが、すこし仕組みを変えてはどうかと思います。

(飯塚委員) アンケート結果は、自分の運営側の経験で感じたことと一致しています。高学年のキッズクラブ参加に関しては、児童たちが塾や習い事に通う中で、元々ニーズが少ないのだらうなと思いました。あえて高学年の需要を掘り起こす必要はないのではないかと考えています。

(宮永委員) 障害のある児童にも地域行事に参加してほしいという気持ちがありますが、一方で、地域全体の関わりが減っていると感じています。近所にどんな人が住んでいるかわからないということで、あいさつをする機会も減っていると思います。そうならないように学校やキッズクラブで地域のあり方を学ぶ機会があるとよいと思いました。

それから、市立の特別支援学校と、県立養護学校にはまっ子ふれあいスクールが5校残っています。放課後キッズクラブの区分1のような形で運営されていますが、放課後キッズクラブの新区分とは別として考えるということによろしいですか。

(事務局) そのとおりです。

(辺見委員) スライドの26枚目には、新区分を創設する場合は、「なるべく早く始めてほしい」と回答している方が35.2%いらっしゃるので、方向性が決まり次第、早めに周知をした方がよいと思います。

(明石部会長) 新区分の創設される場合、事務的な作業が従来と変わるとは思いますが、運営法人としてどのように対応するか、何か市のサポートが必要なのか、理究キッズにお聞きし

ます。

(理究キッズ) 理究キッズでは自社を含めて8法人(131校)の皆様と定期的に情報交換をする機会を設けています。その場では、新区分に関する話題もありましたが、これについて、4点意見が挙がりました。

1 プログラムの見直しについて

プログラムの充実について話が出ましたが、見直し後の区分1の16時まで利用する児童に対して何をするのか、おやつを16時台に提供する方向で見直した場合に、プログラムの充実とどう両立させるのかがポイントになると思っています。

2 新区分への利用希望について

新区分に希望者が殺到した場合、活動場所の面積を確保して定員を増やしていかないと、クラブを利用できない児童が発生するおそれがあります。

3 区分の増による利用の複雑化について

現行では2つの区分ですが、新区分が創設されると3つになりますので、明確なルールづくりが必要です。24枚目のスライドでは、例外的対応について記載があり、各運営法人で柔軟に対応できれば良いのですが、プログラムの頻度など、学校ごとに対応に不公平感が出ないようにしなければならないのではないかという意見が出ました。

4 区分ごとの時間の区切りについて

見直し案としては、16時までの区分1、17時までの新区分、19時までの区分2とありますが、これを16時まで、17時30分まで、19時までと90分ずつに区切ることによって、運営法人としては運営しやすくなるのではないかということでした。

(青山副部長) 高学年にキッズクラブが選ばれていない実態として、大人が見守るキッズクラブで遊びたくないと感じるのは、児童の成長過程においては自然なことのように思いました。また、低学年であれば留守家庭児童かどうかということがポイントですが、高学年になると、それ以上に、習い事を沢山している、させられる家庭かなど、家庭の環境による放課後の過ごし方の違いが大きいのだなと感じました。

理想としては、学校の中ではない場所で遊べるような施設や場所がある方が、高学年には向いているのではないかと思います。

新区分については、財政状況も踏まえて、なるべく一番困っている御家庭に負担がないという形は徹底していただきたいです。

(明石部会長) 本件の検討事項につきましては、部会長の専決事項として、私と事務局で確認を行い、子ども・子育て会議総会で報告するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

以 上

資料	[議案資料] 資料5 放課後キッズクラブ事業の見直し 別紙 放課後キッズクラブ事業 質の向上に向けた取組 ロードマップ (案) [参考資料] 資料1 横浜市子ども・子育て会議 放課後部会委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議 放課後部会事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱
特記 事項	